

# 施政方針の概要

9月4日(火)、平成19年第4回薩摩川内市議会定例会で、森卓朗市長が述べた市政に関する考えや方針の概要を紹介いたします。

なお、全文は市ホームページに紹介しています。

## 昨今の諸情勢について

新潟県中越沖地震が発生し、尊い人命と多くの財産が失われました。この地震では、柏崎刈羽原子力発電所で運転中の3基が緊急停止し、関連施設についても多くの被害を受けました。

現在、各関係機関の調査が行われていますが、耐震上の問題などで運転再開は認められていません。

本市の川内原子力発電所においても、経済産業省からの指示を受けて自衛消防隊体制の強化などについて九州電力(株)が改善計画を報告したと聞いています。本市としても暫定的な改善措置などについて、市消防局を窓口にして、協議を進めさせていきます。さらに、原子力は何よりも安全性の確保が第一であることから

ます。1日も早い工事着工と完成を願うところです。

## 産業廃棄物最終処分場

川永野町の採石場跡地を候補地とする公共関与による産業廃棄物管理型最終処分場について、この8月から県が立地可能性等調査に着手しています。生活環境等影響調査として、これまで川永野自治会を最初に井戸の利用状況調査が行われ、現在、候補地およびその周辺のボーリング調査や気象調査などに着手しており、今後、県では、約1年をかけて必要な調査や解析を行ううとしています。

## 本市をめぐる最近の動きについて

### 集落営農組織の誕生

倉野・藤川に次ぐ、本市で3番目となる農事組合法人「やまだ」が設立されました。品目横断的経営安定対策における集落営農組織が誕生したことは今後、各地域の組織づくりに拍車がかかるものと期待しています。

### 川内川流域の激特事業

県北部豪雨水害から1年が経過しました。8月4日、川内川流域市町で行われる河川激甚災害対策特別緊急事業の着工が大口市で行われました。輪中堤などの整備を平成22年度末までに356億円かけて実施され

条件などに対し、どれだけスピーディーに対応できるかが重要になっていきます。

本年4月に工業団地整備プロジェクトチームを設置し、工業団地適地の検討・調査を進めており、今後、誘致を進める上で不可欠となる用地について、早急に確保する必要があります。

## スポーツ観光交流

プロ野球チームキャンプ誘致など地域経済への波及効果も期待しますが、スポーツを通じた観光交流を積極的に推進していきます。

## 景観政策

景観計画策定などに向けて、庁内の作業部会を立ち上げ、その準備作業を行っています。地元との意見交換や策定委員会などのご意見を頂きながら保全すべき景観や観光交流に生かせる景観などについて取りまとめ、来年度条例を議会に上程したいと考えています。

## 一般会計補正予算

14億680万9000円を追加し、総額474億680万9000円としました。

## 視察研修に参加して

8月18・25日の日程で、地域資源を活用した交流人口の増加策などを学ぶため「電源地域市町村トップセミナー海外研修」が行われ、イギリス・フランスのグリーンツーリズムに取り組んでいる農村や美しい村などを視察しました。



視察研修の様子

本市の将来都市像は「市民が創り 市民が育む 交流躍動都市」ですが、このうち「交流躍動」について本市の取り組みに何らかのヒントを得ることはできないかをテーマに臨みました。その成果については、体験型農村観光交流、歴史的建造物の保存、景観保全などのいわゆるツーリズムにヒントを得たので、定住構想も含めて今後の施策に反映させてまいります。